

公益社団法人
アムネスティ・インターナショナル日本
東京都千代田区神田小川町2-12-14 晴花ビル7F
TEL: 03-3518-6777 / FAX: 03-3518-6778

©Amnesty International

STOP TORTURE GLOBAL SURVEY

ATTITUDES TO TORTURE

拷問に関する意識調査



**AMNESTY
INTERNATIONAL**



5大陸21カ国で2万1千人以上 を対象に行った聞き取り調査 の結果は——

- 半数近くの人(44%)が、身柄を拘束されたら拷問されるかもしれないと恐れている。
- ほとんどの人(82%)が拷問を明確に禁ずる法が必要だと考えている。
- 3分の1以上の人(33%)が、市民を守るために拷問が正当化されうる場合があると考えている。

調査について

2013年12月から2014年4月にかけて、21カ国21,221人の市民を対象に、対面または電話で聞き取り調査を行った。

下記の3設問に対し、強くそう思う、ある程度そう思う、あまりそうは思わない、強くそう思わないの4択で質問した。

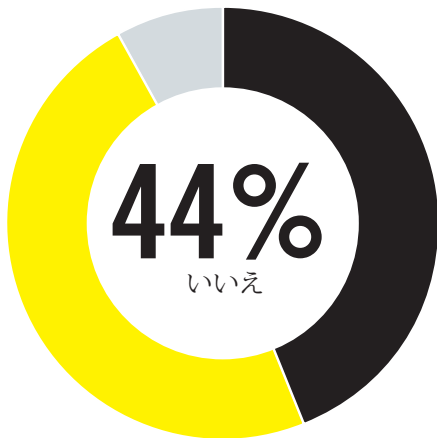
- 1) もし当局に身柄を拘束されても、私の国では拷問されないと確信している。
- 2) 拷問を明確に禁止するルールは非常に重要だ。なぜなら、拷問は非人道的な行為であり、国際的な人権の力を弱めるからである。
- 3) 拷問は、市民を守る情報を得るために、時には必要であり、許される。

調査対象国：

アルゼンチン、チリ、ブラジル、ペルー、メキシコ、カナダ、米国、オーストラリア、インド、インドネシア、韓国、中国、パキスタン、トルコ、英国、ドイツ、ギリシャ、スペイン、ロシア、ケニア、ナイジェリア

※調査は、アムネスティからの依頼で、国際的な調査コンサルティング会社GlobeScanおよび各国における同社のパートナーが行った。

1 もし当局に身柄を拘束されても、私の国では拷問されないと確信している。



10人に4人以上が、拘束されたら拷問されるかもしれないと感じている



強くそう思う



ある程度そう思う



あまりそうは思わない



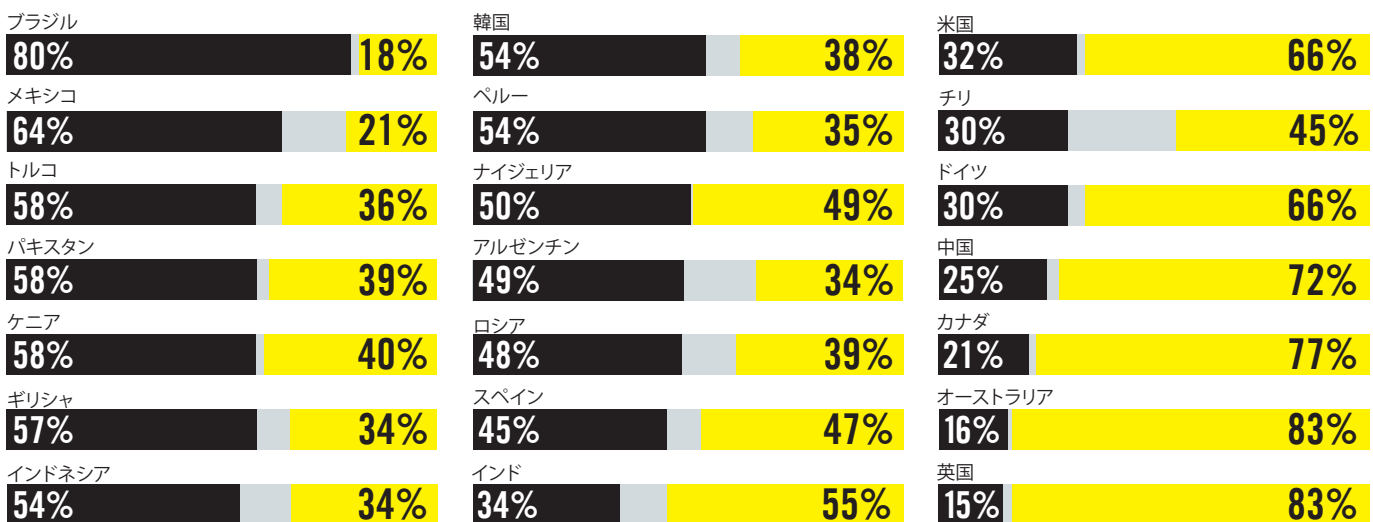
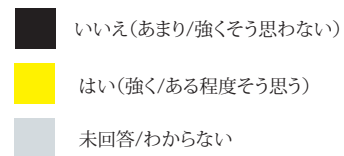
強くそう思わない



未回答/わからない

拷問への恐れは、ブラジルとメキシコで一番多い。

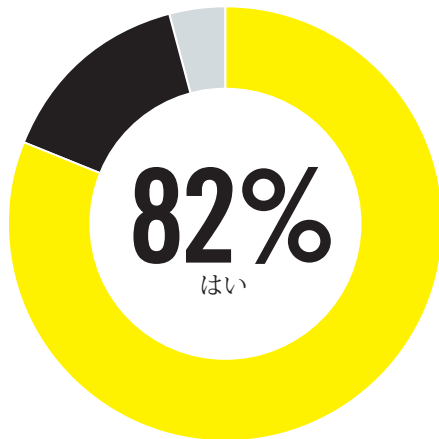
低い国は、英国、オーストラリア、カナダで、3/4以上の人々が、拘束されても拷問されないと考えている。



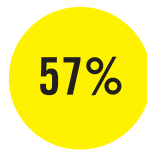
拷問への恐れを感じるか、感じないか、国によって受け止め方はさまざまである。

2.

拷問を明確に禁止するルールは非常に重要だ。なぜなら、拷問は非人道的な行為であり、国際的な人権の力を弱めるからである。



国際的な世論は、拷問を禁止する国際ルールに賛成している



強くそう思う



ある程度
そう思う



あまりそうは
思わない



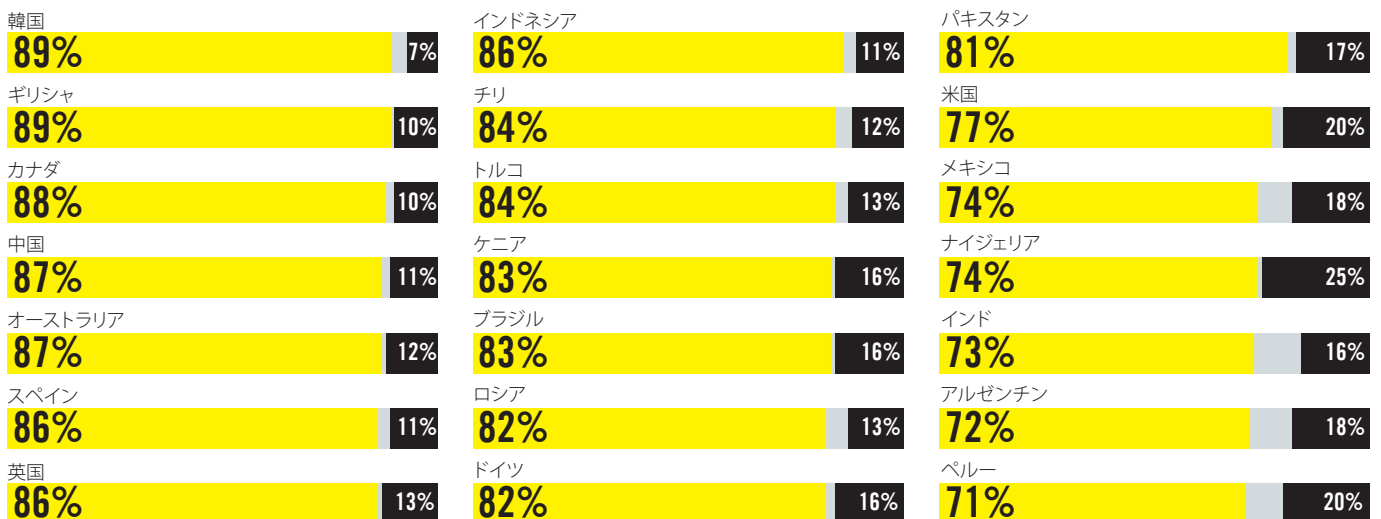
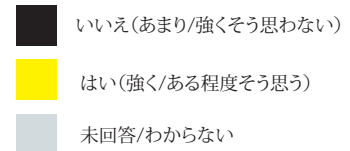
強く
そう思わない



未回答/
わからない

拷問禁止の国際ルールに消極的なのは、アルゼンチン、インド、メキシコ、ナイジェリア、ペルーで、ルールが必要だと考える人は4分の3以下。

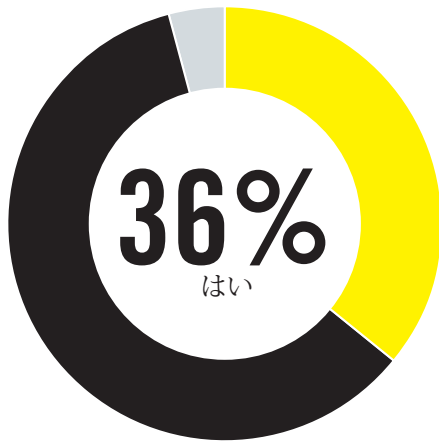
強く賛成しているのは、ギリシャ、ドイツ、スペイン、英国、オーストラリア、カナダ、韓国、チリ。



すべての国で拷問禁止のルールに賛成する人が大多数を占める。

3

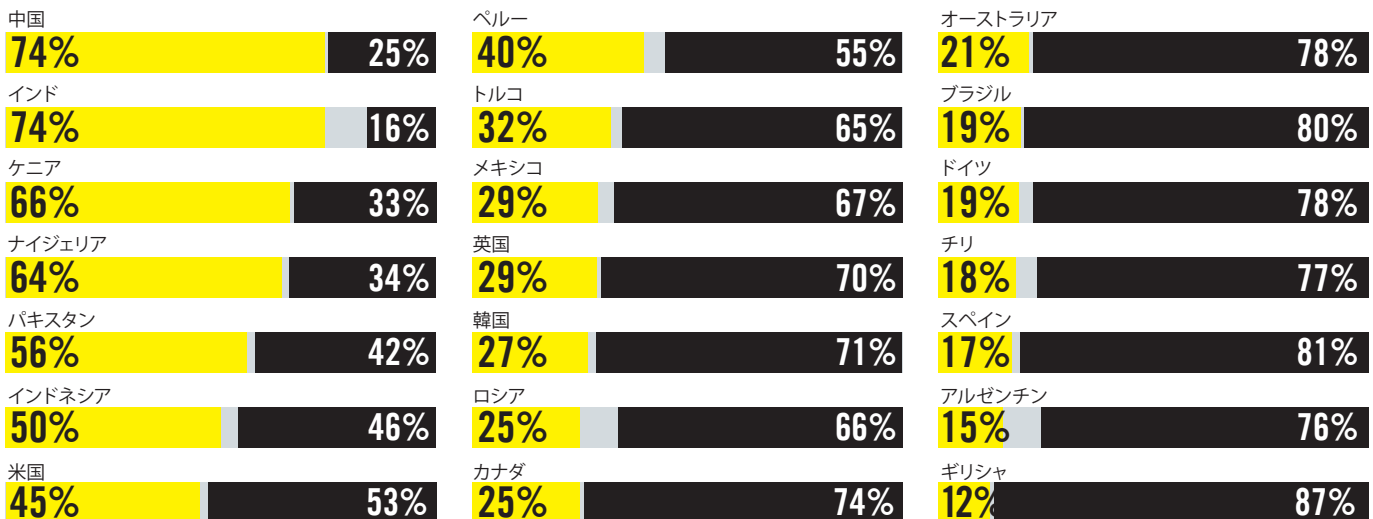
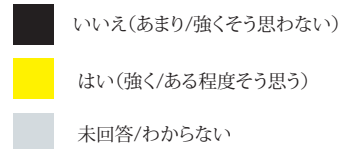
拷問は、市民を守る情報を得るために、時には必要であり、許される。



3分の1以上の方が、市民を守るために拷問が正当化される場合もあると考えている。

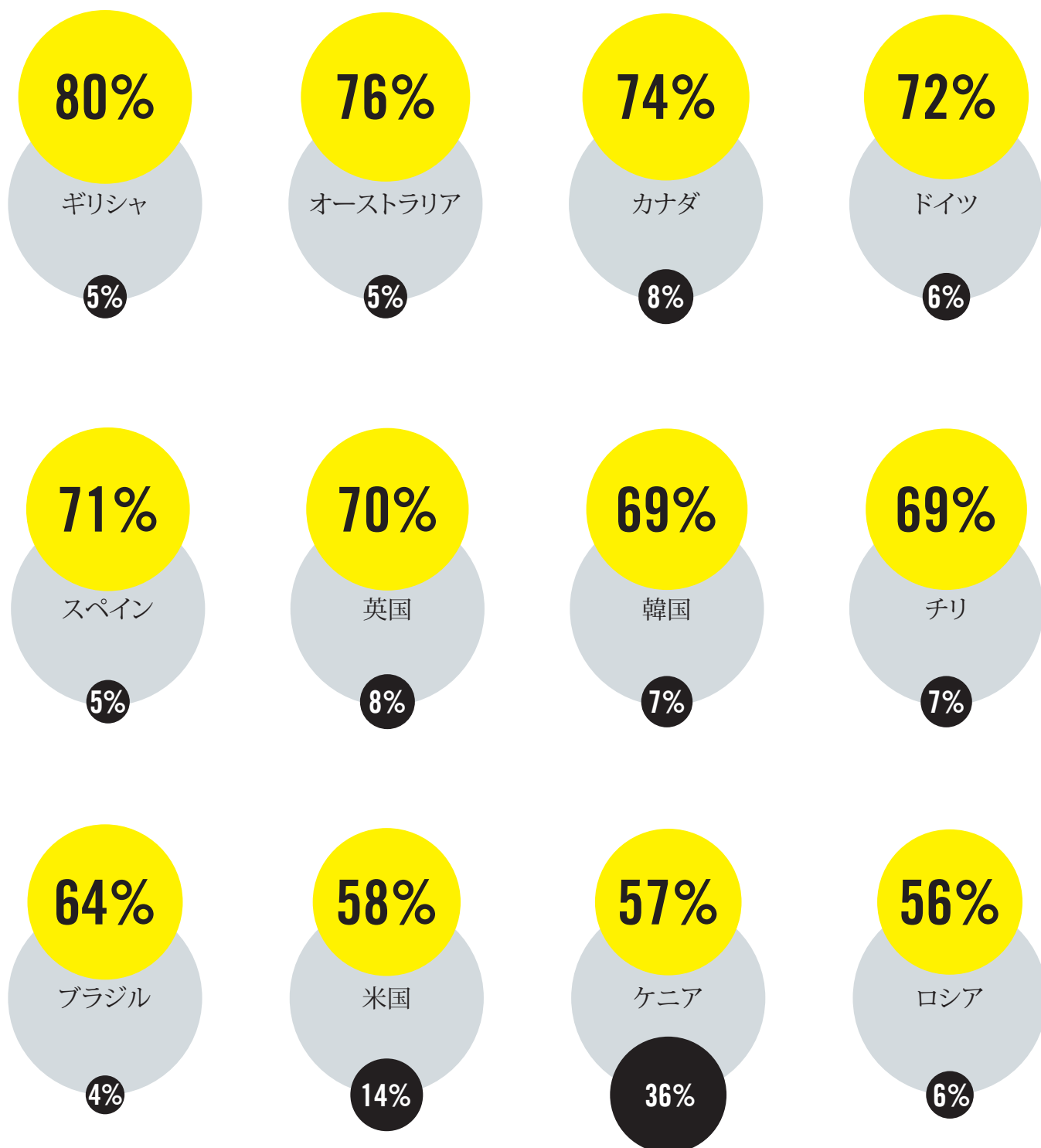
中国とインドでは多くの人が、拷問は時により正当化されうると考えている。

ギリシャ、アルゼンチン、スペイン、ドイツ、ブラジル、チリでは、ほとんどの人がたとえ市民を守るためであっても拷問は正当化できないと考えている。



情報を得るための拷問の是非は、意見が分かれる。

拷問禁止のルールは必要 VS. 拷問は正当化できる



53%

パキスタン

16%

51%

アルゼンチン

3%

49%

インド

25%

47%

インドネシア

15%

43%

ペルー

13%

41%

ナイジェリア

31%

38%

トルコ

5%

33%

中国

31%

27%

メキシコ

10%

設問2に強く同意

拷問を明確に禁止するルールは非常に重要だ。なぜなら、拷問は非人道的な行為であり、国際的な人権の力を弱めるからである。

設問3に強く同意

市民を守る情報を得るために、拷問は時に必要であり、許される。